

タスカルーサ市公式訪問団歓迎会が開かれました 笑いと感動のひととき！

齊藤 富男（事務局長）

姉妹都市提携 30 周年を記念して、タスカルーサ市公式訪問団（代表 ウォルター・マドックス市長）一行 13 名が、10 月 27 日(木)から 31 日（月）までの 5 日間の日程で習志野市を訪れました。今回の訪問団は市長、巡回裁判所判事、アラバマ大学関係者 5 名(内 2 名協会理事)、タスカルーサ国際姉妹都市協会理事等 4 名、市民訪問団 4 名という顔ぶれでした。

5 日間という短い期間でしたが、谷津干潟自然観察センターなどの市内公共施設の見学と習志野高等学校、津田沼小学校での交流と目まぐるしい日程の中、10 月 30 日(日)に国際交流協会主催の歓迎会が開催されました。

タスカルーサ市訪問団の来習については、姉妹都市提携 20 周年記念（2006 年）以来であり、市長の来習としては、10 周年記念(1996 年) 以来です。協会としても「心よりおもてなしをしたい」との思いで、会場探しから準備を始めました。そこで訪問団の方々に感動とおもてなしの場所として考えたのが千葉工業大学 1 号館 20 階の展望室でした。当会場はタスカルーサにはない高層建築物で、そこから望む夜景の素晴らしさは群を抜いており、さらに快適な空間と優雅な緞帳、スワロフス



訪問団メンバーを紹介する姉妹都市協会のリサ・キーズさん（右端）

キーのシャンデリアと全てが華麗な雰囲気醸し出し、会場として絶好のシチュエーションです。ここは千葉工業大学関係者のご配慮により借りることができました。またオードブル・飲物等の準備も、日曜日にも関わらず快く引き受けていただいた千葉工業大学レストランスタッフの方々の協力によるものでした。紙面を借りて御礼申し上げます。

当初は参加者を 60 名から 70 名位を想定していましたが、日毎に参加者が増え、ふたを開けてみれば 100 名を超えました。参加者は、協会会員はじめタスカルーサ市を以前訪問した方、タスカルーサ市青少年訪問団の受入に携わったホストファミリー・学校関係の方、習志野市青少年訪問団、市民訪問団の方などで、交流の輪が着実に広がってきていることが実感できました。

当日のアトラクションとして、津軽三味線日本チャンピオンである土生(はぶ)みさおさんにご出演いただきました。繊細なる音色と感情を込めた力強いバチさばきに、訪問団の方も日本伝統芸能の奥深さを堪能され、酔いしれたことと思います。その様子はタスカルーサ市国際姉妹都市協会のフェイスブックに



崎山会長のプレゼントに応えるマドックス市長

動画が投稿されていますので、市民のみなさんも是非ご覧ください。

感動が感動を呼び、最後にはタスカルーサ市訪問団の有志による合唱披露に拍手喝さいの嬉しいハプニングもありました。訪問団の方も笑いと感動のひとつときを過ごしていただけたでしょう。

今回の歓迎会は立食形式でしたが、座る席を十分用意したことで、参加した方々の語らいと記念写真の光景があちらこちらで見られました。ソフト面でも、国際交流部会はじめボランティアのみなさんが夜の定例会議などで準備を重ねた成果が十分発揮されました。

国際交流協会の使命である、国籍・宗教などの異なる人々がお互いの文化的な違いを認め合い、お互いが思いやりと支え合う心を育

てていかなければならない、という精神が十分発揮できた歓迎会だったと思います。今後もみなさんと共に、市民レベルでの友好と親善を目的とした交流活動にまい進したいと願っています。



笑顔があふれる参加者のみなさん

(参照)タスカルーサ市国際姉妹都市協会フェイスブック

<https://www.facebook.com/TuscaloosaSisterCitiesInternational>